

建設防災 ボランティアニュース 第60号

目次

- ・平成28年度定期総会
- ・第1回リーダー会
- ・風水害対策訓練
- ・砂防ボランティア全国のつどい
- ・意見交換会開催(南東建)
- ・道路施設等点検始まる

平成 28 年度定期総会開催

一日頃の心掛けが大切

平成 28 年度定期総会は 6 月 22 日 (水) 午後 3 時から東京都道路整備保全公社 A・B 会議室で、会員 76 名が参加して開催されました。

藤田理事の進行により、まず杉浦会長から「この 1 年間都内では大きな災害もなく、協会の事業も予定通り実施され皆さまに感謝します。しかし熊本地震は従来とは異なるパターンで発生して大きな被害を出しており、予知技術はもとより耐震技術さえも完全には確立されていないことを思い知りました。何時来るかも分からない地震に対しては、日頃の一人ひとりの心がけや準備が最も大切と考えます。協会員はこのことを家族や地域の方々へ発信していただきたい。今年度も協会活動への積極的な参加をお願いするとともに、万が一災害が発生した場合は、可能な限り建設局への支援活動に加わっていただくようお願いいたします。」との挨拶がありました。



挨拶する杉浦会長

続いてご来賓の方々から、ご挨拶を頂戴いたしました。その一部をご紹介します。

●佐野建設局長

「建設局は熊本地震発生直後に 4 名の先遣隊を派遣し、現在は 3 名の技術職員が休みなく



災害査定業務を行っています。また東北 3 県にも 8 名を派遣しており、いざというときのための災害対応力を不断に磨いておくため、人員に余裕がない中やりくりして

派遣しています。この災害対応力の強化のもうひとつの柱が建設防災ボランティア協会です。事務所と共同で行う防災訓練などの地道な活動が大きな力となることを期待しているので、今後ともよろしくお願ひします。」

●飯尾東京都公園協会理事長

「公園協会と防災ボランティア協会は建設局の防災活動という大きな神輿を一緒に担い



でいる仲間であり、今後とも貴協会の活動を支援していきたい。公園協会が受け持っている 21 箇所の防災公園は、広域の防災拠点、避難場所としての重要性が増して

いる。今後とも地元区市等との連携や弱者、障がい者への対応など、リアリティーをもって取り組みたい。熊本地震でも避難所が被災したため、公園などのオープンスペースの重要性が改めて認識された。今後とも皆さんとスクラムを組んで都の防災に取り組んでいきます。」

●杉橋道路整備保全公社道路部長

「本来は横溝理事長が挨拶するところですが所用があり、代理でご挨拶させていただきます。勝鬨橋ミニツアーは今年5月末で通算1,332回、7,661名を案内しており、皆さんの対応のおかげと感謝している。公社には都のOBが約100人勤務しているが、協会への加入者が少なく、今後増やす工夫や努力をすべきと思う。また公社は電線類地中化、橋梁耐震化、道路防災ステーションの建設などの業務を通して都道の防災性向上のお手伝いをしている。ミニツアー以外の活動でも連携協力できると考えているのでよろしくお願いします。」



続いて湯本会員が議長に選出され議事に入りました。まず平成27年度事業報告を高橋理事が、同収支決算報告を萩原理事が説明し、奥水監事が会計監査報告を行った後、一括して拍手により承認されました。続く平成28年度事業計画(案)は新井副会長が、これに伴う収支予算(案)を萩原理事が説明し、これも満場一致で承認されました。



参加された会員と説明する新井副会長

最後に我々の活動を支えていただいている事務局の北原恒一さんと川久保和子さん及び勝鬨橋ミニツアー担当の酒井達夫さんが紹介され、全ての議事が無事終了しました。

議事終了後、会長から今年度のリーダーとサ

ブリーダーに委嘱状が手渡され、また協会に貢献されてきた下記の方々への感謝状の贈呈、新入会員14名の紹介、挨拶等が行われ、全ての次第を終えました。

- 年間10回以上活動会員【()内活動回数】
池田繁敏(18)、小山完治(16)、船山吉久(14)、佐野正生、丸山勝彦、井上幸夫(以上13)、小川恭治、柳川宣彦、吉田安輝、中込孝仁、林健一郎(以上12)、瀧澤勝、伊藤政行、浅田光昭、新川彰、藤井賢介(以上11)、藤野文隆、岩井壯三、古川俊明、横井純夫、舛原邦明、湯本勝(以上10)
- 15年継続会員(敬称略、以下同)
井出和夫、奥水昭秀、高木省三
- 10年継続会員
阿部博、杉浦浩、田中敏夫

総会終了後69名の方々、場所を都庁第一庁舎32階食堂に移し懇親会を行いました。総会と同じ藤田理事の進行により、杉浦会長の挨拶、外出先から駆けつけられた協会顧問でもある横溝道路整備保全公社理事長のご挨拶に続き、新井副会長の乾杯で始まり、そこここで談笑し、元気よく和やかな時間を過ごし、柿塚顧問の締めでお開きとなりました。



盛り上がる懇親会

会員の皆様長時間の御協力誠にありがとうございました。今年度もよろしくお願いします。

広報担当理事 林幹生

年10回の活動が目標！！

—定期総会に参加して—

今年度から建設防災ボランティア協会の会員になりました。都の退職にあたって、理事から強い勧誘？を受けましたが、私としては、会員の皆様の活動への積極的な取り組みを拝見していましたので、退職後に当然入会するものと思っていました。どうぞよろしくお願ひいたします。

また、当協会には、建設事務所におきまして、初動対応訓練や道路施設の点検、バリアフリー点検等でご協力をいただくとともに懇親を深めさせていただきありがとうございました。

6月22日に初めて定期総会に参加しました。この中で感じたことは、まず、当協会の活動が多岐にわたり行われていることです。局の初動対応訓練など防災訓練への参加だけでなく、発災時の活動における技能向上や災害や防災等の知識を得るため、「普通救命講習会」や「砂防講習会」、「防災講習会」、「道路・橋梁や河川の施設見学会」が行われています。

さらに都民の道路や河川等に対する関心を高めるため、「川を歩こう」や「川のパネル展」など河川愛護月間の行事等への参加、協力を行い、勝鬨橋見学ミニツアーの案内活動をほぼ毎週行っています。これは、都市基盤施設の建設・維持管理を通じて、東京のまちをつくり、守るといった会員皆様の高い意識や使命感に拠っているのではないかとつくづく感じました。

二つ目に永年に活動している会員や年間で活動の参加が10回以上の会員を表彰していることです。10年、15年の会員やなんと年18回も参加している会員がいらっしゃいました。高齢？の会員の方々にとっても、表彰によって、参加意欲が向上するだけでなく、参加による健康維持に大きく役立つのではないかと思います。

関東・東北豪雨による鬼怒川の決壊や熊本地震など大規模な災害が発生し、東海地震や首都直下地震も想定されています。改めて、当協会の目的である「大規模災害時に建設局と協力し、情報収集や応急復旧などの支援活動を行うことで、施設の早期復旧等を図り、地域社会に貢献する。」を肝に銘じ、当協会の活動に積極的（年10回以上を目標）に参加していきたいと考えています。



懇親会で談笑する会員（中央が望月さん）

三建班 望月 裕

第1回リーダー会議開かれる

—チームワークで円滑な事業活動を—

今年度の第1回リーダー会議は、6月29日午後、道路整備保全公社17F会議室において開かれました。これは、1週間前の定期総会で承認された事業計画に基づき、本年度事業を円滑に進めるために協会役員と各事務所リーダー・サブリーダーの方々との意思疎通や意見交換等を図るために毎年行なっているものです。

会議は二宮副会長の司会進行のもとで始まり、最初に所要で会議に間に合わなかった杉浦会長に代わり、新井副会長から「昨年はリーダー・サブリーダーの方々を始め会員の皆様のご協力で円滑な協会運営ができましたことを感謝いたします。本年度も現役時代の経験を活かし、各事務所班でのチームワークを図りながら本年度事業を円滑に推進していただきたい。」との挨拶がありました。

議事に入り、二宮副会長から(1)28年度事業予

定・会員について(2)東京都総合防災訓練等(3)河川愛護月間行事の支援について (4)その他の議題が示されました。

最初に(1)28年度の事業予定については、新井副会長が本年度の各事業についてその概要、実施時期、担当役員などを説明するとともに、各事務所と意見交換会等を行うなどして事業の円滑な実施をお願いしました。

次に(2)東京都総合防災訓練等については、久保田理事から説明があり、実施日時は9月4日(日)、主な会場は葛飾区内の都立水元公園、墨田区内の東京スカイツリーほかであります。訓練目的は昨年と同様、震災時の「自助・共助」体制の確立並びに行政及び防災機関の「連携」であります。主な訓練内容としては①地域住民の避難場所への避難訓練及び避難場所運営訓練②住民共助による訓練③建物倒壊からの救出救助活動等訓練の案が検討されているとのことでした。

具体的な訓練内容は現在協議中であり、決まり次第、建設局から連絡があるので第五建設事務所、東部公園事務所のリーダーの方へは別途通知するとのことでした。また昨年同様近隣の建設事務所班の応援体制も考えられるとのことでした。



リーダー、サブリーダーと説明の高橋理事

(3)河川愛護月間行事の支援については、高橋理事から都民参加行事の「川を歩こう」の実施にあたり各事務所の担当者と連絡を密にして協力してほしい。また参加者が決まりましたら担当理事まで氏名を教えてくださいとのお願いがありました。「川のパネル展」及び「東京の川を考えるシンポジウム」については、すでに担当理事が会

員にメールで協力依頼を行っており、特に「川のパネル展は」昨年より土日の開催日数が増えたにもかかわらず、今日現在ほぼ決まったことに対するお礼を申し上げます。

質疑応答では、昨年と交代したリーダー・サブリーダーも居なかったため、特に大きな質問・意見等も無く、皆様了解されたようでした。

最後に、到着された杉浦会長から遅れたお詫びと、何時発生するかわからない災害に対する心構えと共に、本年度も建設局と密接な連携を保ちながら事業を円滑に実施していきたい。リーダー・サブリーダーの皆さんのご協力をお願いしたいと挨拶があり、閉会しました。

広報担当理事 高橋紀男

今年も参加！！

—東京都・日の出町合同風水害対策訓練—

6月19日(日)午前9時～12時、平井中学校において訓練が行われました、当協会からは、西建班田中が参加しました。

この訓練は、集中豪雨や台風による災害から住民の生命を守ることを目的にしており、住民の避難訓練や災害体験訓練が行われました。

参加機関は、東京都、日の出町、国土交通省、陸上自衛隊、警視庁、東京消防庁、建設業協会ほか、地域住民等多数参加しました。

建設局は土砂災害防止法、水防災システム、道路災害防除などのパネル展示とその内容説明を行いました。



建設局のパネル展示

住民の避難訓練、炊き出し訓練、救急救命訓

練、水防土嚢設置訓練、山岳高所救助訓練、障害物除去訓練、ホイスト救助訓練、倒壊家屋救助訓練、など実践的な訓練を行い、副知事、日の出町長が講評を行い無事終了となりました。



倒壊家屋救助訓練

西建班 田中久雄

「もんげ岡山」につどう

—砂防ボランティア全国のつどい—
—土砂災害防止「全国の集い」—

「砂防ボランティア全国のつどい」は、6月の土砂災害防止月間中に全国の砂防ボランティアが一堂に会し、その体験を発表しあうことによりボランティア活動の在り方や技術の研鑽に努めることを目的として開催されるものです。本年は6月21日(火)に開かれ、岡山シンフォニーホールイベントホールには全国から集合したボランティア会員で会場はほぼ満席の状態でした。



満席のシンフォニーホール「つどい」会場

まず主催者を代表し「砂防ボランティア全国連絡協議会」の亀江幸二会長から、また来賓として

「国交省水管理・国土保全局砂防部長」の西山幸治氏からご挨拶がありました。たまたま前日の20日に九州地方に大雨が降り、土砂災害により尊い人命が奪われたことへ哀悼の意を表すとともに、日頃のボランティア会員の活動や行政への支援に対し感謝の言葉が述べられました。

次に、「砂防ボランティア活動等功労者表彰」があり、栃木県宇都宮市の「岩渕賢司氏」をはじめ、24名の方に表彰状及び記念品が手渡されました。続いて「徳島県砂防V協会」及び「特定非営利活動法人 神通砂防」の2団体から活動報告があり、その後斜面判定士認定証の授与や砂防ボランティア基金交付決定書授与が行われました。

最後に岡山県砂防ボランティア協会の一薫寛会長より、「岡山では『もんげ岡山』という方言がある。『もんげ』は『ものすごい』という意味で使われ、岡山県は全国で年間降水量が一番少なく『晴れの国岡山』と言われるぐらい季候に恵まれた県である。しかし近年では平成25年9月に総社市で大雨による大規模な土砂災害が発生しており、災害はいつ襲ってくるかわからない。日頃から災害への備えをしておく必要がある」との閉会の挨拶で議事は終了しました。



市民会館「集い」会場入り口

午後は会場を岡山市市民会館大ホールに移し、「土砂災害防止『全国の集い』」が開催されました。この「集い」は国土交通省、岡山県の主催で、参加対象は一般住民や行政担当者(国、都道府県、市町村)砂防工事関係者であり、砂防ボランティア会員は自由参加となっています。

南東建との意見交換会

—建設工事と地盤災害—

開会式典では、国土交通大臣、岡山県知事等の挨拶に始まり、緊急報告として長井隆幸国交省火山砂防室長から今年4月に発生した熊本地震に伴う「土砂災害とTec-Forceによる緊急調査」の報告がありました。

また、京大大学院農学研究科 小杉賢一郎教授による「土砂災害警戒避難における降雨データの活用方法」と題した基調講演がありました。土砂災害の発生を予測するには、積算雨量を評価するための指標と降雨強度を評価するための指標を、それぞれ横・縦軸にとった座標面で降雨状況を把握する「スネーク曲線」を活用することが効果的というものでした。今後の土砂災害警戒避難に役立つことを期待します。



小杉賢一郎教授の基調講演

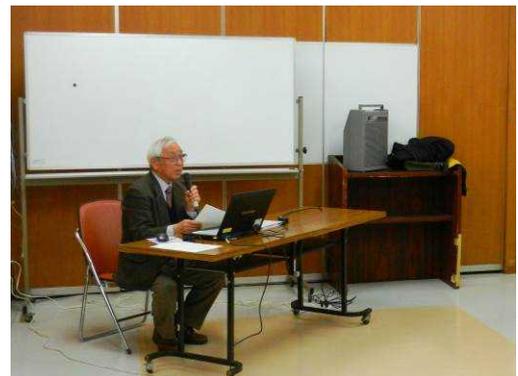
このあと、「いつかはくる！もんげー土砂災害に備える」のタイトルでパネルディスカッションがありました。コーディネーターは二宮徹NHK盛岡放送局放送部副部長、パネリスト5名、およびコメンテーターとして西山幸治国交省砂防部長のメンバーで、広島土砂災害や御岳山噴火などを例として、突然襲ってくる自然災害に対し、住民の知識・意識啓発の必要性等について熱く議論が交わされました。

午後のプログラムは以上で終わりですが、当日の18時からの意見交換会や翌日の現地講習会（半日コース、終日コース）には、いずれも有料であることから不参加としました、何よりも翌22日（水）は当ボランティア協会の総会が控えていることから駆け足で岡山駅に向かい帰京しました。

砂防担当理事 佐藤清美

平成28年3月3日、午後3時30分から、南多摩東部建設事務所第一会議室において、事務所さんの特段のご配慮のもと、「建設工事と地盤災害」と題して杉本隆男氏（南東建所属ボランティアであり、元東京都土木技術研究所技術部長。）に講師をお願いし、講演会を開催しました。

当日は、南東建の所長や関係幹部職員をはじめ工事課、補修課等の若手技術職員20人弱（本年1月1日採用職員も含む。）のほか、当所所属ボランティアの皆様（丸岡、本間、田澤、織田、矢内、武内、若尾、佐々木、柴田、敬称略。）も加わりました。



講演する杉本会員

講演のイントロでは、昨年からの新聞紙上等を賑わしているマンション傾斜のトラブル事例を地盤災害事例として紹介説明され、南東建管内にも、似たような地盤の箇所が多いのでご注意くださいとの示唆がありました。次いで、都市土木に伴う地盤災害のトラブルシューターについて、講師の30有余年にわたる都庁生活での経験を踏まえて、地盤工学的な視点から、①地盤災害とは（災害誘因と素因）②地盤災害のトラブルシューター（掘削の問題、斜面、盛土、基礎、道路陥没、擁壁変形等の問題、地下水問題、地震による問題等）③素因（東京の地形区分地質断面、地盤構成する土の状態）について、問題事例を織り交ぜながら分かりやすくご説明いただきました。

講演終了後には、受講された若手職員の方か

ら、現場の最先端において、技術的観点からみた疑問点や判断苦慮している事項等について質問があり、講師から、現場経験を踏まえた見解、意見等が示され、今後の業務遂行にあたって、誠に意義深い研修会を実施できたものと考えております。



熱心に受講する南東建とボラ協の参加者

また、講演閉会後には、二階の会議室に場所を移して、所の管理職の皆様と参加ボランティアによる意見交換会を行い、冒頭中村所長様から、日頃のボランティア活動と本日の講演会に感謝する旨のご挨拶いただいた後、所の主要事業の進捗状況や計画等について、活発な情報交換、意見交換が行われました。

当日の締めとして、所の管理職の皆様と南東建ボランティアの皆様（懇親会には原田様も参加。）との懇親会がもたれ相互の信頼関係を深め、さらなるボランティア活動の推進が図られることを願ひ、意義深い一日を終えることができました。南東建の所長様はじめ関係職員の皆様ありがとうございました。また、講師役の杉本様はじめご参加いただいたボランティアの皆様お疲れ様でした。



南東建管理職との意見交換会

南東建班 柴田賢次

道路施設等点検始まる

— 現役の皆さんの手助けにつながれば —

南東建班では、7月1日、9名のボランティア（田澤、原田、杉本、武内、織田、矢内、本間、佐々木、柴田、敬称略。）により町田街道における徒歩点検を実施した。当日は、梅雨の中休みの天気、朝から晴れており、やや蒸し暑さを感じる中での活動であった。

午前9時45分頃には全員が事務所に集合し、前田補修課長さんをはじめ、中曽根統括課長代理さん、河原主任さんと挨拶。前田課長さんから、激励のご挨拶をいただいた後、当日の点検コースについて説明を受け、午前10時に、事務所を徒歩にて出発した。

所を出てから、町田街道（中央橋北交差点）に到着すると、この交差点から、東回り班（5名）と西回り班（4名）との2班に分かれて現場に入った。文字通り町田街道は南東建の極めて重要な幹線道路の一つであり、交通量も多く、日頃から事務所の皆さんが良好な保安全管理に努めているようで、路面補修が終わった箇所も多く、舐の詰まりやガードレールの損傷あるいは、不陸なども少なくきれいな道路状況であった。

そうした中であって、OBである我々としては、道路利用者の安全性の一層の向上や、万一の事故防止等も考慮して、現役の皆さんへの手助けに少しでもつながればという一念から、徹底した点検を実施した。結果、近年の沿道建物の高層化・高度化や都市化等ともあいまって、電柱等に張られたビラや看板、歩道におかれた看板立て用の石、或いは老朽化した案内看板、意味不明の規制標識柱の存在等、何点かの指摘を行うことができた。

また、当日は東回り班では、南橋交差点から戻ってくる際に、町田街道（原町田三丁目交差点）と交差した道路（町田3・3・7）についても、点検を行った。この道路は都道であるが、町田市として駅や重要な公共施設へのアクセス及び地域の交

通渋滞の解消等、地域づくりに重要な路線について、都と市等が協働して事業を実施する「みちづくりまちづくりパートナーシップ事業」により整備された道路である。地中化も図られ、停車帯付の2車線道路として完成しており、沿道建物もきれいに立ち並び道路整備の効果が十分発揮されている様がよく理解できた。

西回り班は、所定の点検を済ませ、集合場所である市役所跡地公園に先に到着していた。東回り班も、少し遅れて、芝生広場に着いた。そこで、全員集合の記念撮影をした後、事務所に戻り、新局長訓示式から戻られたばかりの鹿田所長さんから、労いと感謝のお言葉をいただき、当日の点検は無事終了となった。



無事点検が終って次の楽しみへ

この後、ボランティア有志(8人)で、駅近くのお店に立ち寄り、のどの渇きをいやすとともに、懇親を兼ねた昼食会を行い、午後2時30分には散会となった。その後、どなたが仕上げに赴いたかは知る由もない。参加されたボランティアの皆様、暑い中、本当にお疲れ様でした。

南東建班 柴田賢次

新規会員の紹介

新年度を迎え、前号の紹介以降8名の方が入会されました。会員の高齢化が心配されるなか、若い力?で協会を引っ張って行ってください。

荒井一郎さん(四建班、砂防、ミニツアー)
川合康文さん(北南建班、ミニツアー)

丹野修さん(西部公園班)
酒井達夫さん(二建班)
望月裕さん(三建班、ミニツアー)
佐藤鉄さん(西建班)
鈴木秀一さん(二建班、砂防)
野崎元さん(北北建班)
よろしくお願いたします。

協会からのお知らせ

- ① 総会でもご紹介しましたが、今年度も公園協会の北原恒一さん、道路整備保全公社の成沢裕章さん、酒井達夫さん、川久保和子さんには、私たちの活動のいろいろな場面でお手伝いをいただくこととなります。なにとぞよろしくお願いいたします。
- ② 各班の活動報告をお待ちしています。ぜひ下記編集担当理事又は林まで連絡願います。林アドレス(mikio.hayashi@okumuragumi.jp)
- ③ 協会のH. P(東京都建設防災ボランティア協会掲示板)には、最新の情報、ニュースのバックナンバー、建設局報などが載っています。アドレス(<http://tokyo-adv.info/>)

編集後記

ポケモンGOの配信と相模原の痛ましい殺傷事件という重大ニュースが続きました。小さなADVニュースですが何とか盆前の発行に漕ぎ着け、幸先の良いスタートとなりました、今年度もよろしくお願いいたします。

発行人 杉浦 浩

発行 東京都建設防災ボランティア協会

新宿区西新宿 2-7-1

小田急第一生命ビル 20F

(公財)東京都道路整備保全公社内

編集 高橋 紀男、林 幹生

堀内 康彦、丸岡 敏夫

